

放射性物質含む埋め戻し材「フェロシルト」

可児市の民有地にも埋設

住民ら撤去求める

市側「業者交え近く説明会」

微量の放射性物質を含め戻し材「フェロシルト」むとして市民グループが可児市の民有地に埋め使用中止を求めている埋られていたことが二十五



フェロシルトが埋められた造成地で住民に経緯などを説明する可児市職員。25日午後1時40分、同市大森

日、分かった。同日には現地で同市環境課職員が埋められた経緯などを説明し、市民三十人が撤去を求めた。

埋められていたのは同市大森の住宅団地近くの約二平方メートルの造成地。同市によると、土地の所有者は名古屋市の業者で、愛知県春日井市の業者がケナフの栽培目的で今年一月上旬から埋め始めたという。

現地説明ではフェロシルトに詳しい河田昌東四日市大学講師が立ち合い、放射線量を測定。自然界とほぼ同じ値だったが、覆土のない地点では自然界の二倍ほどの値が測定された。

河田講師は「粉じんが飛散して体内に入ると危険。撤去するのが一番望ましい」と指摘。同地区

の宮島鉦二自治会長は「最初は産廃かと思った。これ以上埋めないような対策を講じてほしい」と

市側に求めた。同市は埋めた行為に違法性はなく、撤去を求めたくてもできない。住民と行政、業者を交えた緊急の説明会を近く開きたいとした。フェロシルトは、酸化チタンの製造過程で出る汚泥をリサイクルした製品。土地造成などで土砂を取り出した場所を埋める。戻すための埋設材料として使われている。三重県は県のリサイクル推奨品に認定しているが、名古屋市の市民団体などが環境や人体に悪影響があるとして使用中止を求めている。県内では土岐市や瑞浪市に埋められていたことが明らかになっている。

可児・むき出しフェロシルト

放射線 自然界の2.3倍

放射性物質を含む埋め戻し土「フェロシルト」が可児市大森の民有地に埋められているとして、付近住民や同市議らが二十五日、放射線問題に詳しい四日市大学(三重県四日市市)の河田昌東講師(環境科学)を現地に招いて放射線を測定した。

可児市の現場は、山間中で地面からむき出しに部に造成した住宅団地の近くで、一月中旬から愛知県春日井市の業者が埋め戻し作業を続けており、最終的には三千トほどになるという。フェロシルトを埋めて土をかぶせてある地点で、放射線は自然界と同程度、作業

この日は地元住民ら約三十人が立ち会った。河田講師は「粉塵を吸い込むことによる内部被ばくの心配がある。粉塵が飛散しないような対策が必要だが、フェロシルトは

本来産業廃棄物として処分すべきものだ」と話した。

同市環境課では「法的には問題がないので取り締まることはできない。業者に住民との説明会を持つように要請したい」と話している。

フェロシルトは、白色顔料などに使われる酸化チタンを精製する際に出る排液を再利用、土状にしたもので、四日市市の化学メーカーが製造販売。三重県がリサイクル推奨品として認定している。(小西 数紀)

FD 2005. 3. 26

22面 社内版